

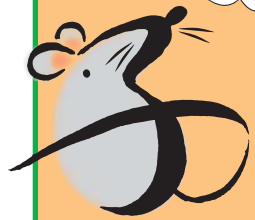
あけましておめでとーございませす!



一陽来福 新津總鎮護 堀出神社

にいつホヤト ステーション

2020. 1
vol.826



毎月1回
発行

発行所 / 新津商工会議所
編集発行人 / 田村 一夫
〒956-0864
新潟県新潟市秋葉区新津本町3丁目1番7号
TEL 0250(22)0121 FAX 0250(25)2332
Email: n-cci@fsinet.or.jp
URL http://www.niitsu.or.jp/

今月号の紙面

- ・役員・議員・振興委員
- ・紙上名刺交換
- ・各種団体
- ・新春賀詞交歓会案内



新年のご挨拶

新津商工会議所会頭

前田 正実

明けましておめでとーございます。
令和二年の新春を迎え、謹んで皆様のご多幸とご繁栄をお祈り申し上げます。

昨年十一月の臨時議員総会で、新津商工会議所第九代の会頭にご推挙いただきました。大変な重責でありますが、お引き受けした以上は精一杯務めてまいりますので、古川前会頭体制時と変わらず皆様方のご理解とお力添えを賜りますことを切にお願い申し上げます。

さて、我が国経済は、大都市・大企業を中心に総じて回復の基調にあると言われて久しく、地域や中小企業・小規模事業者においては、人手不足や原材料の価格上昇などから収益が圧迫され、業況の改善に向けて依然力強さに欠けた状況にあります。

昨年末に当会議所が実施した景況調査でも、需要の停滞、ニーズの変化、人件費の増加・圧迫や下請業者の確保難などが依然として経営上の大きな隘路となつていられるほか経営者の高齢化と併せて事業承継に関して課題となつていられるという事例が多くみられました。

一方、業種や企業別によつては堅調さをうかがわせる声も、少なからず聞こえています。また、昨年十月の消費税率の引き上げ、軽減税率の導入については全体として大きな混乱は回避されているなど、冷静さも窺えます。これらの事実を踏まえると、地域の景気は「まだらながらも現状維持的な」状況が変わらず続いているというのが当所の認識であります。

当局には引き続き地方や中小零細企業が経済の回復を真に実感できるような経済の舵取りを強く願うところです。

今年も会議所では、前会頭が敷かれた路線を、基本的に踏襲しながら、会議所法に規定された「工業の総合的な発展」と「社会福祉の増進」に基づき「会員企業の発展」と「地域の活性化」の二つを最重要の柱に据えてまいります。地域の事業者の皆様方の意見や要望に真摯に耳を傾けながら、さらなる地域の発展につなげていきたいと考えております。併せて方針として、次の三点に特に意を用いていきます。

(一) 会員事業所の発展

このことは会議所創設以来の最優先事項であります。地域の企業の皆様方が、生き生きと経済活動ができる基盤整備に積極的に取り組むことが何よりも重要であります。会議所の使命は、経営環境にかかわらず会員の方々や地域にとつてより良いサービスを提供することが全てであります。そのためには、

経営指導員を中心に会員各企業それぞれのニーズに叶った伴走型の支援を徹底する中、各種相談事業等の推進に一層の力を注ぐなど、会員の物心両面の満足度向上に貢献するよう全力を挙げてまいります。

(二) 鉄道のまちの完全復活

明治時代の半ば頃から新津のまちは、鉄道とともに発展してきたといっても過言ではありません。

近年では「SL復活の地」として名を馳せ、鉄道資料館を有するほか、商店街に往時の鉄道の息吹が感じられるなど、全国のファンから「鉄道の聖地」などとして認識されています。しかしながら、新津駅に降り立つても今一つ「鉄道のまち」のインパクトが感じられないとの声が多いなど、「鉄道のまち」に見合った環境の整備はまだ十分とはいえません。

将来的な鉄道資料館のまちなか移転などを期しながら、再び押しも押されぬ鉄道のまちとなるべく取り組んでまいります。

(三) 新津のまちの再生

他の多くの地域と同様、新津の中心市街地においても、老舗の割烹・飲食店や旅館・ホテル、菓子店、書店などまちの顔と呼べる店舗や施設が次々と廃業、撤退を余儀なくされています。空き家や空き店舗、空き地も増加する状況にあり、かつてのまちの輝きは失われつつあります。こうした中で、往時の活力と活気を取り戻すべく、様々なイベントや行事が行われていきます。引き続き賑わいだけでなく稼ぐための仕掛け作りを念頭に、まちなかの再開発に向けて力を入れていきたいと考えます。とは申せ、まちづくりは、一朝一夕にはなし得るものではありません。

長期的なスタンスで、地道に、但し、タイミングによつては一気に成り取り進む課題であります。このための動きは行政の協力を得て、地元関係者との調整を図りながら進めてまいります。

当会議所は、これからも地域や企業から信頼され期待される存在となるべく、新しい年も地道に事業活動を進めてまいります。このほか、当会議所自体としては、財政基盤の確立に向けて稼働力をつけること、会員数の維持・増加を図ること、さらに職員個々人と全体のレベル向上などに努めてまいります。「虫の目」で情報を多角的に眺め、「鳥の目」で判断を下し、「魚の目」で決断を行うことを心がけてまいります。

以上私の所信の一端を申し上げますが、改めて会員の皆様方、地域の皆様方のご隆盛とご多幸をお祈りいたしました新年のご挨拶と致します。